

「確かな学力を身に付けた児童の育成」
～言語活動の充実を図る実践を通して～

I 研究の内容

1 研究の内容と方法

(1) 理論研究

- ・講師を招いての学習会を行う。
- ・学力テスト等を分析し、児童の課題を把握する。

(2) 言語活動を充実させた授業づくり

- ・教科や単元の特性に合った言語活動を取り入れた授業を工夫する。
- ・指導主事を招聘し研究授業を行い、指導を受ける。(年間1実践)
- ・全学年での授業公開。(上記以外の実践者が一人一実践)
- ・授業案の検討、授業後の研究会を、全職員で行い、成果を確かめる。

(3) 日常的な言語活動・言語環境の充実

- ・授業や日常の活動において、話し方・聞き方・言葉遣い・挨拶などの指導を行う。
- ・読書活動、スピーチなど、各学年の実態に合わせ、言語活動の充実を図る活動を行う。
- ・教師による読み聞かせ、図書集会、全校一斉読書など読書活動を推進する。

(4) 少人数を生かした、個に応じた指導の工夫と評価

- ・少人数の良さを生かした授業を工夫する。
- ・児童一人ひとりの課題に対応した指導を工夫する。

2 実践内容

(1) 学習会

「本校の実態に対応した確かな学力を身に付ける授業づくり」

～少人数学級の良さを活かした授業づくり～

講師 山梨大学准教授 高橋英児先生

(2) 授業づくり

ア 研究授業

第2学年 国語 「友だちのこと知りたいな」 授業者 中村 潤子教諭
指導助言 峡東教育事務所 柴田幸也指導主事

イ 授業実践(一人一実践)

第2・3学年 図工 「アートカードで楽しく見よう」

授業者 望月真佐恵教諭

第5学年 算数 「面積の求め方を考えよう」

授業者 小泉 匡之教諭

第6学年 音楽 「作曲をしよう」

授業者 石原喜久夫教諭

- (3) 日常的な言語活動・言語環境の充実
 - ・朝、帰りの会でのスピーチ活動や、行事や集会での感想発表。
 - ・朝のあいさつ運動や、言葉遣いの指導。
 - ・全校一斉読書、「読書deビンゴ」などの読書活動の充実。
 - ・短歌・俳句・川柳づくり
- (4) 少人数を生かした、個に応じた指導の工夫と評価
 - ・発言・発表の機会を多くとる。
 - ・考えを説明したり、教え合ったりする時間を十分にとる。
 - ・複式の授業や、他学年との交流活動。
 - ・ネットワークシステム等を活用した、他校との交流。

II 成果と課題

1 成果

- (1) 研究主題にある「確かな学力」を身に付けることは、現代の教育課題であり、本校児童の実態にも即している。昨年度の研究を基にして、言語活動をさらに充実させ、小規模校だからこそできる実践を追求することができた。言語活動を充実させることは、児童の生きる力の育成へとつながることを確認できた。
- (2) 講師を招いて理論研究ができたことは有意義であった。講師の話や、提案資料等を通して、小規模校の良さを活かした授業や教育活動について適切な示唆をいただくことができ、その後の研究に大いに役立った。また、学習会を通し、研究指針を職員で共有できたことはとても良かった。
- (3) 全学年で授業実践をしたことで、複数の教科で多様な言語活動の実践を行うことができ、研究が深められた。個々の児童の実態を把握し、授業の目標を達成するための手段として言語活動を取り入れることができた。児童一人ひとりの向上を目指した研究ができ、児童の成長をみることができた。

2 課題

- (1) 本校の児童に必要な「確かな学力」とは何か、そのために効果的な言語活動はどんなものかなどを十分に共通理解を図ることが必要だった。
- (2) 授業案をもう少し時間をかけて検討できるとよかった。
- (3) 児童には、自分の考えを文章化したり、幅広い内容の質問をしたりできる力を付けたい。

III 成果物

1 研究授業学習指導案及び資料

- (1) 第2学年 国語科学習指導案 「友だちのこと知りたいな」

2 授業実践指導案

- (1) 第2・3学年 図工科学習指導案 「アートカードで楽しく見よう」
- (2) 第5学年 算数科学習指導案 「面積の求め方を考えよう」
- (3) 第6学年 音楽科学習指導案 「作曲をしよう」

(研究主任 中村 潤子)